

＜株式会社エフエム東京 第346回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：平成20年2月5日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名  
◇出席委員（7名）

子安美知子	委員長	青池慎一	副委員長
内木文英	委員	横森美奈子	委員
内館牧子	委員	香山リカ	委員
渡辺貞夫	委員		

  
◇欠席委員（0名）

4. 議題

（1）最近の活動について

（2）番組試聴：「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」

2007年11月11日（日）23：00～23：30放送分

＜試聴時間：約25分＞

＜議事内容＞

議題1：最近の活動について

◎ FM FESTIVAL について

毎年JFN38局が一体となって行っている全国キャンペーン「FM FESTIVAL」ですが、今回は、音楽文化を担うFM局として、継続可能となる普遍的なコンテンツを目指し、JFN38局がリスナーと選ぶ音楽賞『RADIO AWARD IN JAPAN～LIFE MUSIC 2007』を11月3日（祝）の特番を皮切りに12月26日（水）の発表特番まで約2ヶ月にわたり実施しました。

これは、売り上げではなく、リスナーの心に残ったメロディ、歌詞、声などの10部門を設定し、ノミネート楽曲もリスナーからの推薦で募り、投票もリス

ナーから受け付ける、ピュアでリスナー・オリエンテッドなアワードとして行い、数万にのぼる投票を経て各賞が決定。オリコンを始めとする各音楽誌やスポーツ各紙でも取り上げられるなど、第1回のRADIO AWARDを終えました。

各賞の絞込みなど、幾つかの反省点も踏まえながら次年度に繋げるべく、このFMの祭典が、音楽ファンにとって、アーティストにとって、ラジオの未来へ向けてステイタスを持つ賞となるよう、維持発展させて参ります。

### ◎ 年末特別番組 生ドラマスペシャル「銀色のハンドル」について

昨年12月31日、年末の年越し特番としては初の試みとなる生ラジオドラマを実施しました。11月より全国のリスナーから07年の恋愛エピソードを募集し、寄せられた1,500のエピソードをもとにシナリオを作成、TOKYO FMと渋谷セルリアンタワー内ジャズクラブ“jz blat”を結び、生ドラマとして放送しました。

大晦日、1組のカップルのコメディ劇の中に、07年の世相や喜怒哀楽を盛り込んだ内容で放送。また、当日、彼と彼女の心情に対する意見もリスナーから募り紹介しながら進行、「何もかもぴったりはまってとても素敵な番組」というご意見も頂きました。

### ◎FM ケータイキャンペーンについて

現在国内には2,000万台を超えるFMケータイが普及しておりますが、更なる利用促進のために、当社とJ-WAVEが幹事社となりKDDI(au)株式会社と全国民放FM53局が協力し「Meet the Music 2008」キャンペーンを展開しています。

まずは昨年10月よりFMケータイの利用場면을訴求する長尺スポットを全局でオンエアしながら潜在ユーザーの掘り起こしを図り、次に12月には、辻仁成、石田衣良など人気作家の短編を、竹内まりや、一青窈など人気ミュージシャンが朗読する無料ダウンロード音声コンテンツ「トーキングブック」で利用促進を図りました。そして3月にはその山場として、史上初のFM53局同時生中継ライブイベントを行います。

これは、TOKYO FMが中心となってプロデュースを行い、名実共に日本最高の

アーティスト桑田佳祐がこのキャンペーンのために石垣島で行うオリジナルライブを、日本初となる全FM53局で同時生中継するというイベントとなります。

このプレミアライブにFMリスナーの中から54組108名のリスナーレポーターを2月18日(月)まで募集、3月23日(日)19:00-20:00の特別番組で石垣市民会館から生中継し、リスナーのライブレポートは後日特設サイトで公開します。

本企画は、1月24日(木)に記者発表を行い、TV、新聞各紙で大きく取り上げられました。なお、ライブへの応募はTOKYO FMが全局中圧倒的にトップとなっています。

### ◎TOKYO FMのクロスメディア展開向けに瀬名秀明が長編小説を書き下ろし

TOKYO FMでは、大ベストセラー『パラサイト・イヴ』の著者・瀬名秀明氏が書き下ろした、R35世代の未来に向けて贈る長編小説『Every Breath エヴリブレス』をラジオドラマ化し、デジタルラジオとインターネットラジオで放送・配信・関連コンテンツのダウンロードサービスを実施するほか、携帯の特設サイト、出版(3月刊行)など、メディアを横断したコンテンツ展開を行ないます。

今回の書き下ろしは、薬学博士、東北大学機械系特任教授であり、ITにも造詣が深い瀬名氏が、TOKYO FMのクロスメディアへの積極的な取り組みに高い関心を持っていただき、実現したものであり、人気作家がこうしたクロスメディア展開用に長編を書き下ろすのは異例のことです。

作品の舞台はデジタルな仮想空間でありながらも、本質的に描かれているのは人間のピュアな心。今回、デジタルラジオなどの最新メディアを活用しながら、人の心の琴線に触れるコンテンツを届けるといふ、TOKYO FMが標榜する未来のラジオの可能性に共感いただき、実現の運びとなりました。

TOKYO FMは今後も更にコンテンツ・クロスメディアに取り組んで参ります。

## 議題2：番組試聴

【番組名】「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」

【放送日時】

2007年11月11日（日）23:00～23:30 放送分

【番組概要】

スタジオジブリ作品のプロデューサーとしてメガヒット作品を生み出し続けている鈴木敏夫プロデューサーが初めてパーソナリティに挑戦。各界のクリエイターを招いての対談を通じて、ジブリの生み出す、世界を動かすアニメ文化をプロデュースする醍醐味や苦労など、外からは窺えない真実や、発想のヒント、人の心をとらえる仕事とは何なのかを伝えています。

鈴木プロデューサーは、当社の番組「ディアフレンズ」にゲスト出演した際に、人の本当の心が伝わるメディアであるというラジオの持つ魅力に強い関心を持ち、自らラジオのクリエイティブに取組みたいと申し出られたことから、本番組が実現しました。世界が注目する最新作『崖の上のポニョ』の情報はこの番組から発信を始めるなど、意欲的にラジオ番組にチャレンジしています。

今回は、大ヒット映画「Always～続・三丁目の夕日」主演の吉岡秀隆氏をお招きした回をご試聴頂きます。

<試聴時間：約25分>

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

- TOKYO FMは正統派な番組が多いと感じる。この番組も、ナレーションや効果音などをきっちりと作ることで、本編部分の雑談のようなラフな雰囲気とのバランスをとっているように感じられた。ジブリファンや三丁目の夕日ファンにはたまらない、ある意味マニアックな内容を、きちんとした番組形式にして、放送しているのはよいことだと思った。

- 普段ラジオを聴いていると、5分ずつくらいで、コーナーが切り替わるのがちょうどよいと感じることが多い。この番組は、音だけで集中して聴き続けられるかということ、個人的には厳しく感じた。聴取者が想像力を働かせながら番組の会話についてきてくれると信頼してこのスタイルを貫くのか、もう少し聴きやすい形に変えるのかが、考えどころではないかと思う。
- 非常に面白く聴かせて頂いた。鈴木さんは、もう少し話を聴いてみたい、話してみたいと思わせるパーソナリティを持った人だと感じた。こういう方をパーソナリティに人選するのはなかなか大変なことだと思う。
- ある意味、予備知識がないとわかりにくい、不親切な番組ではある。しかし、よくよく聴いていると、鈴木敏夫さんという人は非常に面白い人だと感じられてきた。偶然この番組に接触した人にはわかりにくいかもしれないが、ジブリファンの人などが集中して聴くには、興味深い番組かと思う。
- 鈴木さんはユニークなキャラクターで、面白い人をセレクトしてきたと感じた。ゲストのセクションが大変だと思うが、エピソードなどは面白い話が多くでてきたので、もう少しエッセンスを集めるような編集の仕方をすれば、より聴きやすくなるのではないかと思う。
- 作り手の姿勢が問われる番組だと思う。番組作りには、①ラフなトークをあまり校正しないであるがままに放送するやり方、②綿密に打合せをして作っているのに作っていないように見せるやり方、③打ち合わせから見せ方まで全てをしっかりと作るやり方、の3種類があると思うが、これはどれにもあてはまらないと思う。このレベルの話なら、普通のサラリーマンが居酒屋でもしている。出てくる話があまり斬新でなく、ナレーションも思わせぶりなだけで、内容が伴っていないと感じた。
- トークの雰囲気、番組用に作られた感じがしなかったのも、そこがよいと思った。プロとプロが、仕事のあからさまな部分を語りあい、仕事に對峙しているときの言葉や裏話が、ふと垣間見れるのが面白かった。他分野のゲストの話なども聴けたら面白いのではないかと思った。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

① 放 送：番組「Heart Sharing」

2月24日（日） 6：00～8：30放送

② 書 面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は3月4日（火）に開催することを決めた。

以 上